

第2回鳥取市市政改革推進市民委員会・議事概要

日 時：令和6年8月27日（火） 午後3時30分から午後4時30分

会 場：鳥取市役所 本庁舎7階 第1委員会議室

出席者：《委員》7名出席

山下 博樹 委員長、河崎 誠 副委員長、谷口 明洋 委員、森田 祐加 委員、

土橋 勉 委員、小柴 正子 委員、大久保 英美 委員

《鳥取市》

行財政改革課：宮崎課長、米田参事、若田主幹、山崎主任

会議内容

1. 開会

2. あいさつ

委員長：

本日の会議は台風次第でオンラインによる開催することも考えたが、台風の方が遅くなり対面による会議ができた。

第2回の委員会ということで、皆さんに本年度していただくことの説明も予定されているが、分かりにくく複雑なところが多々あると思う。よく理解した上で進めていけるようにしたい。また、事務局は本日の欠席者へのフォローもお願いしたい。

3. 議事

市政改革プランの令和5年度進捗状況について

事務局：

（資料 P3、4 を説明）

市政改革プランの二次評価について

事務局：

（資料 P5～11 を説明）

- ・二次評価は各自の作業となるが、市民委員会を書面開催の形で行う予定である。
- ・二次評価いただいた結果は10月11日（金）までに事務局にご提出いただきたい。事務局では、10月後半に開催を予定する第4回委員会までに結果を集計し、ご意見の整理ができるようにまとめる予定である。

委員長：

二次評価は、本委員会における今年度のメインの作業となる。分からないところは遠慮なく聞いていただきたい。

「担当課評価シート」にある73計画すべてで、A：計画を上回っている、B：概ね計画とおり、C：計画より遅れている、といった評価が書かれている。それが妥当かどうかを各委員の目線からもう一度評価する作業となる。

私を含めて昨年を経験している方は大変な作業を理解されていると思うが、1つの

計画を見るのに10分ぐらいとしても時間がかかるので、余裕をもってまとまった時間がある時に取組んでいただきたい。

『担当課評価シート』のAやB等の評価が書いてある赤枠内【実績及び担当課評価】欄には、令和5年度の1年間の計画はどんなもので、その隣の進捗状況では1年で何ができたか、担当課自己評価にはAやBと判定した根拠が書かれている。我々はそれが妥当かどうかをチェックしていくこととなる。

しかし、赤枠の部分だけではその計画の目的なども分かりにくいので、上の【実施計画の内容】欄を見ていただきたい。

また、もう1冊の絵のある『補足資料』は、73計画の『担当課評価シート』が文字ばかりで難しい言葉も多いので、その専門用語の説明や計画の目的等が載っている。理解を助けるものなので、これを見ながら『担当課評価シート』を見ていただきたい。

A委員：

それぞれ個々の案件について、我々は絶対評価を行うが、その結果を第4回委員会で全体で共有し、2次評価を確定するとある。それはどのように進められるものなのか参考に教えていただきたい。

委員長：

委員10人が各計画の評価に対する妥当性をどのように評価したかを事務局で集計するが、例えばある計画にあまりにも「わからない」という評価が多くなってしまうと、それをそのまま担当課に返してもあまり役に立たないので、なるべくその「わからない」を減らすため、その計画の補足的な資料をもらったり、或いは説明を受けたりして、できる部分は修正していくイメージ。

しかし、それぞれの評価は尊重され、追求することはない。私も率直に妥当でないと思えば、「妥当でない」と評価する。その際は何で「妥当でない」や「わからない」と考えたか、理由はお書きいただく。また、その計画についての感想も『二次評価入力シート』の一番右の欄に書いていただけるといいと思う。

特にこうしちゃいけないということはないので、皆さんが市民目線で、思ったことを書くことに取組んでいただきたい。それが市役所のためになる。

そういったことを担当課にフィードバックして、次年度以降はよりわかりやすい評価シートを作ってもらいたい。

・市政改革プラン（第8次行財政改革大綱）の骨子について

事務局：

（資料P12, 13を説明）

- ・現市政改革プランの取り組みから継続する計画もあるが、脱炭素化の推進など新たな取り組みを追加して進めたいと考えている。
- ・現在、各施策のための実施計画を市役所の各担当課から案を出していただき、どんな取り組みや目標を設定するのかを検討しているところである。案件としては約50件。
- ・新しい市政改革プランの草案は11月にまとめる予定としており、その頃までに内容をまとめていきたいと考えている。
- ・本委員会でも内容がまとまり次第、説明をさせていただき、皆様からご意見をいただきたい

委員長：

今年度、我々が二次評価をするのは、市役所が令和 5 年度に取組んだ実施計画ですが、それは令和 6 年度が最終年度となる 5 ヶ年計画であり、今ご説明いただいたのは来年度の令和 7 年度から 5 年間取り組む新しい市政改革プランである。

A委員：

今後のスケジュールに来年 1 月に、当委員会において新市政改革プランを審議するとあるが、その審議の内容がプランの変更に、ある程度影響力を持つものなのか、現段階で分かれば教えてほしい。

事務局：

本委員会は 11 月と来年 1 月に会議の開催を予定しており、その際に新市政改革プランの素案や最終案を説明し、ご意見をいただきたいと考えている。このため 12 月の市民政策コメントで公開する新市政改革プランの素案は、11 月開催の市民委員会における意見が盛り込まれたものとなる見込みで、さらにご意見等あれば内容を検討し修正していく。

事務局：

補足だが、12 月に予定する市民政策コメントは、市の最終案を広く市民の皆様にお示ししてご意見をいただくものですので、市民委員会からは 10 月や 11 月の委員会でしっかりご意見をいただき、可能な限りそれを最終案に反映させたい。市民政策コメントでご意見をいただきたい。

A委員：

言葉の意味合いについての確認だが、新市政改革プランの柱 1「効率的な執行体制の構築」は、「効率的＝スリム化する」ではなく、職員数が限られる中でも生産性を高める体制を構築するという意味合いで捉えたらよいか。

事務局：

言われる通りで、業務が増える中で職員数を減らすことは現実的に難しく、職員の能力向上や、さらなる業務の効率化を進めて職員の生産性を上げ、よりよい業務を行えるような体制を整えていこうという趣旨である。

委員長：

これまでも市民委員会ではプランや実施計画に対する改善案などを出してきている。市民委員には民間の方も多くおられたので、民間の取組や効率性を高めるための提案或いは経験を忌憚なく話していただいた。

今回も役所のやっていることが良いか悪いかだけでなく、より良くなるような建設的な意見をこの市民委員会を出していきたい。

B委員：

市政改革プランの二次評価のことで伺いたい。『担当課評価シート』の評価が C：計画より遅れている、と書いてあっても【単年度計画】欄に載せていることはできており、遅れていると思わない計画に対して、どう二次評価どうすればよいか。

事務局：

『担当課評価シート』の B や C 等と評価を書いている横の【担当課自己評価】欄に、担当課がその評価とした理由を記載している。そこを読んでやはり違うと考えられ

るなら「妥当でない」と二次評価をいただきたい。また、何が違うと考えたのか書いていただけると、役所としては大変参考になりありがたい。

C委員：

『担当課評価シート』の評価を「妥当である」と二次評価した場合もこの理由を書いてよいか。

一方、担当課が計画通りに進んでいるとした評価を、「妥当でない」と二次評価することはし難いと感じている。

事務局：

「妥当である」と二次評価した場合も理由をいただけるとありがたい。

委員長：

「妥当でない」と感じた担当課の評価には「妥当でない」と二次評価されたい。

私も長くこの二次評価をしているが、最初は「妥当でない」が多かった。評価する指標も違和感があるものが多かった。何年かするうち担当課も評価に慣れて市民委員会とのギャップが少なくなったが、それもこの1、2年のことである。一方、今も「妥当でない」と感じるものもある。厳しめに、また民間の視点で二次評価いただきたい。

C委員：

はい。

また、新市政改革プランの骨子について、例えば、柱1「効率的な執行体制の構築」と柱4「スマート自治体の実現」であるが、職員が少なくなることを理由に効率化を進めていけばデジタル化も進んでいくことと考える。となれば、この2つはまとめられないかと思う。

現在の市政改革プランで73計画あり、新市政改革プランでは50に減る見込みであっても、柱は3つから5つに増えている。市民政策コメントを出す時、市民が50もの計画を見ることができるのか。全体に浸透させるためには、スリム化できる場所はした方がいいと考える。無駄は全て省こうという銀行的な考えかもしれないが。

委員長：

遠慮なく発言いただけてありがたい。

市役所も縦割りなため、我々の目線から見ると市政改革プランの計画も重複するようなものもあり、それをチェックするのは大変である。市民政策コメントでもご意見が寄せられるのは関心ある計画になると考える。

その他はよろしいか。

事務局：

二次評価のやり方について質問をいただいたが、他にもあれば事務局に連絡いただきたい。内容は委員会全体で共有するのでお願いしたい。

また、効率的な執行体制の取組の1つとして、本市では電子決裁を進めているが、令和5年度末の実績が46%。令和6年7月末時点で54.7%。印鑑文化というか、進みにくいところがある。皆様からご意見や提案をいただきながら進めていきたいと考えるので、よろしくをお願いしたい。

委員長：

市役所は市民全般に対応するので、デジタル化を進めるにも市民みんなが対応できる状況でない部分もあり、それをどう進めていくかが次のハードルかと。

議事は以上であるが、事務局から何かあるか

事務局：

(事務連絡)

委員長：

では、以上をもって第1回市民委員会を終わりにしたい。
